

## 2-3 まわりの私たちにできること

### ご本人の視点に立った関わりを

#### ご本人の気持ちを理解しましょう

もの忘れが増えたり、今までできていたことができなくなったりという変化に、誰よりもご本人が驚き、混乱し、苦しんでいます。まず、その気持ちを理解するように心がけてください。

#### 認知症だから、「何もわからない、できない」は間違い

認知症を患っても、感情、長年の習慣でつちかった経験、能力、その人らしさは残っています。

#### 心のバリアフリーを

自分や家族など、誰でもが認知症になる可能性があります。温かく見守る、声をかけるなど、さりげない関わりが穏やかな暮らしの手助けになります。

### ～認知症の方とコミュニケーションを深めるときに、大切なこと～

周りの接し方で、行動・心理症状の出方が変わります。

認知症の方の思わぬ言動に、戸惑うこともあると思いますが、間違いや失敗を指摘されたり否定されることが続くと、症状の悪化につながります。

症状を和らげる関わり方のポイントを参考にしてください。

#### ポイント 1 自尊心を傷つけない

ちぐはぐな言動がみられても、怒ったり否定や訂正はしない。こども扱いしない。

#### ポイント 2 笑顔でやさしく

ご本人を緊張させたり、脅かせないように、楽しい雰囲気づくりを。

#### ポイント 3 視野に入って話す

上から見下ろさず、ご本人の目を見て話す。

#### ポイント 4 話をよく聴く

手出し口出しをせず、まずはご本人の話を聴く。言葉がうまく出なかったり、ちぐはぐな話でも、うなずくなどして受け止めていることを伝える。

#### ポイント 5 ゆっくり、ひとつずつ話す

ご本人が受け止めて対応するペースに合わせて関わる。長文は理解しにくいいため、短い言葉で順に伝える。

#### ポイント 6 不安や不快を感じていないか気にかける

ご本人の表情や言動を気にかけて見るようにする。

#### ポイント 7 ご本人にたずねる、確かめる

言葉がうまく出ない場合でも、周りが決めてしまわずに、どうしたいかをたずねて反応を確かめる。



## 認知症を理解し、協力し合える地域に

認知症を患っても、住み慣れた場所で安心して生活できる、そんな暮らしやすいまちをつく  
認知症の人が利用する商店、交通機関、金融機関で働く人など、みんなが認知症を理解して  
ことにつながります。

みんなでつくり、  
認知症になっても  
暮らしやすいまち七尾



迷っている人を見つ  
けたら、お声かけと  
保護に協力します。

安心して出かけら  
れるよう、お役に立  
ちたいです。

困っている  
お客さまに  
は、相談窓口  
の紹介など  
したいです。

お薬のことや認知症の  
ことなど、気軽に相談  
してください。

日頃からの健  
康管理をサポ  
ートします。

お困りの方が  
いたら、丁寧に  
ゆっくり対応  
します。

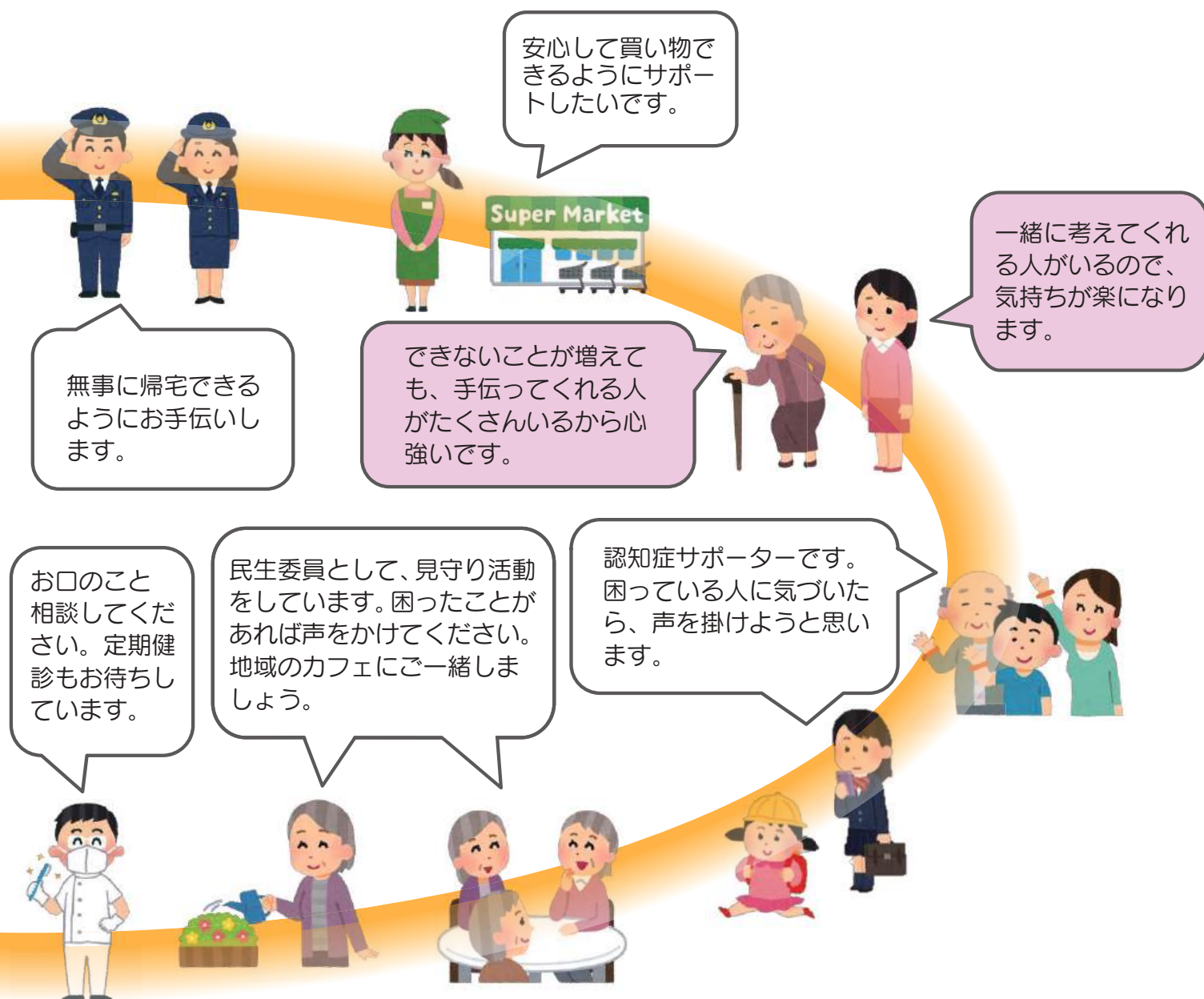


今の暮らしや、これからの  
ことを一緒に考えるために、  
心配なことはご相談ください。



るためには、地域ぐるみの理解と協力が欠かせません。

できる範囲で手助けすることが、認知症の人が気軽に出かけたり、自分らしい生活を続けられる



## 「認知症サポーター」になる

問い合わせ先 高齢者支援課 ☎53-8463

認知症サポーターとは、認知症について正しく理解してできる範囲で手助けをする、認知症の人とその家族を温かく見守る応援者です。

認知症サポーター養成講座を受講した人は、誰でも認知症サポーターになれます。

### 【養成講座の申込み】

町会、商店、学校などのグループ単位で、開催希望日のおよそ1か月前までにお申込みください。

### 認知症サポーターの印



<オレンジバッジ>



<サポーターカード>